

2008年度 第4回定例評議員会議事録

2009年5月21日

日本地質学会評議員会

議長 保柳康一

日時：2009年4月4日（土）

13：00～15：45

会場：北とびあ 901会議室

出席者：出席者：会長 宮下純夫 副会長 高木秀雄 佃 栄吉

評議員（15名） 永広昌之 川端清司 新妻信明 保柳康一 堀 利栄 脇田浩二 安藤寿男

伊藤谷生 岡 孝雄 小山内康人 狩野謙一 公文富士夫 滝田良基 松原典孝 吉川敏之

理事（13名） 渡部芳夫 石渡 明 井龍康文 上砂正一 倉本真一 小嶋 智 坂口有人 斎藤

眞 向山 栄 藤本光一郎 久田健一郎 矢島道子 （事務局）橋辺菊恵

欠席者 評議員（委任状22名）：阿部国広 足立勝治 荒戸裕之 磯 行雄 磯野 清 卜部厚志

大友幸子 北里 洋 木村 学 佐々木和彦 柴 正博 芝川明義 高橋正樹 中川光弘 松

岡 篤 松本俊幸 丸山茂徳 三宅康幸 村山雅史 山路 敦 山根 誠 渡辺真人

欠席者 評議員（委任状なし2名）：沢田順弘 紺谷吉弘

理事（2名） 藤林紀枝 岩森 光

*出席者成立員数（20/39）に対し、出席15名、委任状22名で、評議員会は成立。

*書記の選出：公文富士夫・滝田良基

○報告事項

1. 理事会報告（常置および外部委員会、研究委員会含む）

(1) 運営財政部会

1) 総務委員会（部会長-上砂）

・地球惑星科学連合への加盟登録申請をした。

・地球惑星科学連合より、委員会委員の推薦依頼があり以下のように推薦した。

キャリアパス支援小委員会へ委員：佐々木和彦会員。環境・災害対応委員会：災害の委員として

横山俊治会員（応用地質部会推薦）。環境の委員として小荒井衛会員（環境地質部会推薦）。

学術出版委員会：井龍康文会員

・共同利用施設拠点認定のための要望書提出の要請が以下の施設からあり応じた。

高知大学海洋コア総合研究センター

埼玉大学地圏科学研究センター

信州大学山岳科学総合研究所

- ・東レ科学振興会の「理科教育賞文部科学大臣賞」を杉山了三会員（盛岡一高）が受賞
- ・産総研との H21 年度共同研究「地質科学分野におけるオンライン化の将来動向に関する研究」の契約書を交わした。

- ・以下の団体等から後援，共催の依頼があり，承諾した。

日本ジオパーク委員会の記念式典の後援（2月20日） / 茨城大学主催のシンポジウム「茨城県北地域振興の新たな可能性をさぐるー茨城県北ジオパークをめざしてー」を後援（2月1日） / 原子力総合シンポジウム 2009（原子力学会，5月開催）の共催/2009 年度地球化学会年会（9月15-17，広島大学）共催/第53回粘土科学討論会（粘土学会，9月10-11日，岩手大学）共催

2) 会員委員会（担当理事-向山）

- ・前回からの入会者数 8名

正会員5名（うち院割0），準会員3名

- ・前回からの退会者 122名

賛助会員 3件，正会員118名（院割11），準会員1

- ・逝去者11名 名誉会員 3名 正会員8名

（名誉会員） 藤田和夫（12/1） 加藤磐雄（12/27） 松本達郎（2009/2/7）

（正会員）金子史郎（2008/3/14） 林 行敏（6/16） 内藤源太郎（9/4） 堀江正治（10月または11月） 遠藤勝壽（11/30） 吉村尚久（12/5） 鎌田泰彦（2009/1/10） 品田芳二郎（2009/3/18）

- ・2009年3月末除籍者 91名（リスト回覧）

- ・会員数

	賛助	名誉	正会員(内 院生割引)	準会員	合計
2009年 3月31日	30	73	4,119 (235)	30	4,252
2008年10月31日	33	76	4,331 (246)	28	4,468
前回比	-3	-3	-212 (-11)	2	-216

- ・会員数については予想通りに漸減傾向であることが報告された。逝去者に黙祷。

- ・永年（50年）会員顕彰予定者（14名）

鹿島愛彦 小池敏夫 小林忠夫 小村精一 坂口和則 高山俊昭 手塚高清 野田浩司 町田洋 松山幸弘 丸山順弘 森 啓 盛谷智之 山崎貞治

3) 会計委員会 (佐々木和彦委員長・担当理事-向山)

- ・決算概算報告並びに来年度予算案→ (審議事項)
- ・任意団体と一般法人との間の業務委託経費 (月額6万円) 等の覚書を交わした。
- ・会員減少による収入の漸減がある。収支のバランスはとれていて、かつ、いくつかの要因によって、赤字予算であったが、最終的には140万円程度の黒字。年会収支は黒字で、鉱物科学会との合同開催による参加者増と販売が好調であった結果。

4) その他

- ・連合法人化準備委員会 (高木委員)

昨年12月に一般法人化。後公益認定を目指して、組織整備を行っているとのことであった。

5) 広報委員会 (情報特任担当理事-倉本, 委員長-坂口理事)

- ・Webサイトの整備計画を行うこととした。
- ・広報誌ジオルジュの発行に際しては原稿の仕上げ作業をアウトソースする方向で検討

(2) 学術研究部会

1) 行事委員会 (委員長-斎藤理事)

- ・岡山大会の事前及び当日の業務委託について、イベント会社 (株) アカデミックブレインズと請書を交わした。9月4-6日に開催。そのため、例年より2週間ほど前倒しとなっている点に注意が喚起された。
- ・セッション等への研究者の発表参加の関係で岡山大会を日本地球化学会との共催とすることを承認し、同学会からも承諾された。地球化学会とは今年度の年会において相互に共催関係を結んだ。

2) 国際交流委員会 (特任担当理事-石渡)

- ・日韓地質学会の学生交流を進めるために、学生巡検などで現地での交流が積極的に行われるよう、韓国地質学会長あてに協力を依頼し、快諾を得た。今年3月に新潟大学の韓国巡検に適用。
- ・日本とモンゴル地質学会との交流協定覚書調印に向けて、検討中。・ベトナムとの交流協定の打診をしたところ、相手方から即答があり、日越小委員会の立ち上げ準備と交流の実質化を進めている。

(3) 編集出版部会

1) 地質学雑誌編集委員会（委員長-久田理事）

今月の編集状況は以下の通りです（4月1日現在）。

115-03月号：論説2 ノート1 口絵1（45p. 3/31発送済み）

115-04月号：論説3 短報1 口絵1（45p. 校正中）

2009年度投稿論文 総数15編 [論説5（和文5），総説3（和文3）短報6（和文6），ノート1（和文1）] 口絵1（欧文1）

投稿数昨年比 -14 査読中59編 受理済み25編（うち論説5 短報2 口絵1 特集号17）

要旨の英文校閲を業者に出すこととした。また、編集委員の集まりをもつこととした。

- ・編集規約一本化の原案を作成（別紙資料）

国際性を高める努力を新規約に反映させる。キャプションの英文化など。投稿規定と編集規約の一本化。引用文献の英文化＝サイテーションに適合させるため。

編集委員会を開催することに賛成で、委員会の強化を図ってほしいという要望が出された。

2) アイランドアーク編集委員会（編集長-井龍理事，編集事務局長-竹内圭史）

4月1日現在のIsland Arcの編集状況

順調に推移。特集号は幾つも予約済みだが、一般投稿の出版が滞りがち。待ち時間が長くなることに対応して、Early Viewを拡大し、早期公開を図りたい。

若手への事情への対応のひとつである。

事故2件：表の版組が不正確になりがち。間違いを見落としてしまうことがある。図の解像度が低いという印刷事故。

隔月化の課題については「ページ数は増やしてきた。次の編集委員会で検討し、出版者側とも交渉したい。」との回答があった。

3) 企画出版委員会（担当理事-藤林）

- ・国立公園地質リーフレット：「屋久島たんけんマップ」は校正中で近日刊行予定。校正刷りが回覧された。

- ・地方地質誌「近畿地方」3月刊行済み

- ・地学読本は出版社の都合で刊行が遅れているが、5月の刊行を予定。

- ・地層処分のリーフレット第1部は2009年度の刊行予定で準備していたが、原稿が遅れているため次年度におくこととした。

(4) 普及教育事業部会

1) 地学教育委員会（委員長-中井均，担当理事-矢島）

- ・ 3月26日および4月4日に委員会を開催。

新しい地学教育委員会の体制作りについて話し合った。委員長は中井均会員，副委員長に浅野俊雄会員を選出した。

【連合地学教育検討委員会】（阿部）

・ 地惑連合では，学習指導要領改訂本格実施に向けて，地惑連合が提案した『日本地球惑星科学連合が提案する理科教育の内容』についての教師用テキスト作りを教育課程小委員会を中心に作成している。学術会議社会貢献委員会WGへの協力として，昨年「記録」としてまとめ上げたものに対して国大協を中心に，「高大接続テスト」というような関連する動きが出てきており，それへの議論が始まった。ウェブでの「記録」は連合HPよりダウンロード可能。 <http://www.jpгу.org/scj/index.html>

・ 理数系学会教育問題連絡会は世話人会を地惑連合から数学関係学会へと交代。今年度も引き続き教員免許更新講習についての議論を続け，その動きを見守ることにした。

(5) その他理事会関係委員会等報告

1) 法務委員会（委員長-上砂理事）

除名申請の出ていた件については，1年間の調査の結果，除名には当たらないと判断した旨，理事会に報告した。

国立公園等での節度ある調査活動については，規制範囲を公的機関のHP等で確認して調査を行うようにすることを周知させる。

出版物利用規程については，学会からの利用許可をとるなどの徹底をはかる。著作権者の自由度は高いが，丸ごと転載については，許可が必要であることは言うまでもない。

2) 支部長連絡会議（担当理事-高木副会長）

・ 支部規約の整備について，支部への意見聴取などをしながら，法人化に伴う支部規則のモデル案の再検討中。

3) ジオパーク支援委員会*（委員長-天野，担当理事-高木）

・ ジオパーク広報宣伝用パンフレット作成し，支部，博物館ジオパーク地域等，その他関係機関に配布，また，会員に周知するため3月号のNews誌に掲載した。

【日本ジオパーク委員会（委員-高木副会長）】

- ・ ユネスコに申請する，世界ジオパークネットワーク（GGN）3件を決定
- ・ 2月20日の日本ジオパークネットワーク設立記念式典開催

登録地域 *印は世界ジオパークネットワーク (GGN) に申請中

アポイ岳, 洞爺湖有珠山*, 糸魚川*, 南アルプス (中央構造線), 山陰海岸, 室戸, 島原半島*

5) 法人化作業委員会 (担当理事・委員長-渡部常務理事)

諸規則の策定をし, 後の審議事項として報告された.

2. 評議員会関係委員会等報告

1) 各賞選考委員会 (委員長-中川)

各賞の選考を行い, 評議員会に報告された. (→審議事項へ)

2) 名誉会員推薦委員会 (担当理事-佃副会長)

・08年度推薦委員会の構成

支部長: 宮坂省吾 (北海道), 大槻憲四郎 (東北), 中山俊雄 (代理: 関東), 原山 智 (中部), 宮田隆夫 (近畿), 高橋治郎 (四国), 大木公彦 (西日本)

階層別委員: 岡村 眞 (大学), 紺谷吉弘 (小中高), 植村和彦 (公官庁), 足立勝治 (会社), 石渡 明 (理事会)

・名誉会員候補者の選考を行って, 評議員会に報告した. (→審議事項へ)

3) 男女共同参画委員会 (委員長-堀)

・3月29日-30日 (1泊2日) 金沢-石川県能登半島周辺でワークショップを開催. 詳細はニュース誌で報告する

3. その他

1) 国際地学オリンピック日本委員会 (委員長-久田)

地学オリンピック委員会がNPO法人化された. 9月に台湾大会が予定されている. 2009年度に向けては900名の中・高生の参加. 28名の優秀な生徒を選抜した. 地学クラブの活動, 文系の進学校からの参加が目立つ.

2) 地質の日委員会 (委員 藤林理事)

「地質の日」(5月10日)のロゴが決定. 作者は彦根 正さん (東京都). Geology Dayの「G」をベースに, 重なる「地層」を組み合わせ, 「地質の日」の広がりを表現. 5月10日に表彰する.

4. 理事会審議事項報告（おもなもの）

- ・法人化と事業移行措置についての基本方針の検討，公益法人認定申請についてのスケジュール等の再確認をした．→（審議事項）
- ・国立公園リーフレットシリーズ企画出版委員会の設置について検討した
- ・地質の日行事として，一般市民向けの講演会を開催することとした．鎌田浩毅会員による「火山はすごいー日本列島の火山をさぐる」，会場：科学技術館

○評議事項

* 成立要件の確認；15名の出席，委任状22名で成立を確認した．

1. 2008年度決算案，2009年度事業計画および予算案について

- ・向山会計担当理事から報告された会計試料をもとに審議を行った．決算案を拍手で承認した．
- ・宮下会長より別紙資料にもとづいて事業計画が説明された．特に一般社団法人への完全移行を進めることが大きな特徴といえる．引き続き，向山会計担当理事より，2009年度の事業計画に沿った予算案の提案があった．1000万円を基本財産へ繰り入れること，各種の引当金から，それぞれの事由が発生するものについて取り崩し，支出することが説明された．予算に絡み，いくつかの質問が出された．
- ・普及講演への科研費申請が不採択になる理由はなにか，と質問があり「いろいろと理由は示されているが，今後はさらに企画内容を工夫する必要がある．」との回答であった．
- ・地質学雑誌特集号が多く出る可能性に対応する予算の必要はないか，との質問に対し，「特集号の受理済み論文は17編と多いが6つの企画に対して出ているもので，出版できるのは1，2号分程度の見込み．総ページ数はあまり増えない見通し．」との回答があった．審議の上，2009年度事業計画と予算案が承認された．

2. 各賞選考結果について

- ・高木副会長（中川委員長の代理）から，各賞の選考経過が説明され，以下の選考結果が報告され，承認された．

地質学会賞 2件（鳥海光弘会員，石渡明会員）；柵山雅則賞 1件（水上知行会員）；小沢儀明賞 2件（小宮 剛会員，須藤 斎会員）；国際賞 1件 太田昌秀元ノルウェー極地研究所員；論文賞 2件（高橋雅紀会員論文 2006，守屋俊治会員ほか論文，2008）；小藤賞 1件（嶋田智恵子会員ほか論文，2008）；研究奨励賞 2件（石井英一会員，坂口真澄会員）；地質学会表彰 1件（秋吉台科学博物館）

- ・推薦理由にネガティブな表現があるのは修正した方がよいとの意見があり，選考委員会で修正を検討することとなった．

・次年度の各賞選考は、任意団体としての評議員会の下で、現在の選考委員が留任して実施することを確認した。ただし、職責委員については変更もありうる。

3. 名誉会員候補者の推薦について

名誉会員推薦委員長の佃副会長より、別紙資料に基づき、5名の会員（須鎗和巳会員、飯山敏道会員、相原安津夫会員、原郁夫会員、石崎国熙会員）が名誉会員として推薦され、異議なく総会に推挙することが了承された。なお、残念なこととして、選考中に候補者の品田芳二郎会員が逝去されたことが報告された。その後、今後の検討課題がまとめて紹介され、さらに意見をいただいて、委員会としても今後整理して提起することが説明された。なお、次期の名誉会員推薦委員会の組織は、任意団体としての評議員会の下で選考を行うことが確認された。

4. 法人化と事業移行措置についての基本方針

藤本副常務理事より、別紙資料に基づいて、これまでの公益認定までの間は任意団体と法人の並立で行く方針を、地質学会の活動主体を、早期に一般社団法人に移行する方針が提起され、異議無く承認された。

5. 公益法人認定申請についての再確認

公益認定については、まだ、認定までの時間的なことや公益認定後の先が読めない状況である、また、公益法人となった場合には会計や事業計画、事業内容などの厳密性が要求され、それらを年度ごとに報告するための書類やそれに対する事務量や経費の増加が見込まれる。公益法人化に伴う負担を考え、よく状況を見てゆく必要がある、といった報告がなされた。それに対して、「これまで公益法人を目指し苦勞してきた訳だから、それを先送りするような方針を言うのはおかしい。不満である。理事会できちんと方針をもって、対処してほしい。」という意見が出された。議論はあったが、公益法人化が最大の目標であることには変わりなく、その実現に努力するとした理事会の方針が承認された。

6. 総会議案について

別紙資料に基づいて、5月17日に開催される総会議案を確認し、承認された。

7. その他

(1) リーフレットシリーズ企画出版委員会の設置について

リーフレットの出版を活発にするため、の企画出版委員会の設置に関し、その趣旨ならびに委員会規約案の提案があり、承認された。

(2) 編集規則の改定について

地質学雑誌がサイテーション・インディックス誌として採用されるために、必要最低限の編集規定の改正を行いたい。特に、引用文献の形式を大幅に修正する必要性が説明された。なお、編集に関する各種の規定を統合することも提案され、あわせて、承認された。文献については9月号からの実施を目指す。

(3) その他伊藤評議員よりの要請

1) 文科省の新プログラム「先導的・大学改革推進委託事業？」大学教育支援 質特化型を活用する形で、地球科学関係のフィールド教育強化への対応を検討している。学会としても協力をお願いしたい。

2) 連合のポストドク委員会によるポストドク対策の一環として、現状把握、のため地球惑星科学分野のPD数を調べている。各大学の関連する学科長へ依頼したが、まだ回収が思わしくない。それぞれの数を調べて回答してほしい。